

武藏橋樹郡吉田村の百姓七之助が娘おさよはと云ふ女ありてあり者
 ふと服を穿ててを親の正直一人の契事一事がかうあるて候い
 うを礼を礼せんころく三言承お出向をうけ問へてあるも知らぬとをう
 男をりてい唯多きやその中かころ候と怒りぬ
 大阪

母は泣く足をもたわわて下りかゆく
 ちりぬると子也のナミも更なる奥の二間
 娘をいさ其夜はそめく寐ぬるも
 翌朝見えは涙り首を懸し
 娘の正助玉の結を切り
 泉一近町に去る者む
 醉の採ふみかみしあ
 足脹満の病あり両を



大阪新聞錦画 第十一号



あはれとて... 跡の祀りの野

讀書頁百十四号

大阪新聞

錦画